

原田 泰宏さん

1. 一念発起 (2011年)

2011年4月、私が所属するJ社に新社長Kさんがやってきた。正式には6月の株主総会を経て社長になったのだが、Kさんは前任社長とかなり雰囲気異なる方だった。前任社長は取締役権限を委譲して、社員のモチベーション管理に力点を置いているような調整型の経営者だったが、Kさんは明確なビジョンを持って自ら舵を取る行動型の経営者だった。かと言って、過剰に介入して現場を混乱させるようなタイプではない。任せるところは任せる、バランスの取れた経営者だった。

このKさん、お話の内容が理路整然としていて(まさしくロジカル)、なかなかMECE(抜け・漏れ・ダブリがない)。営業会議等で、時々耳慣れない用語を使い、経営に関する深い知識・教養が感じられた。その後ご本人と1対1で話す機会があり、Kさんが中小企業診断士の資格を持っていることが判明。私と中小企業診断士という資格の出会いである。

中小企業…というタイトルに若干違和感を覚えたが、Kさんからは「ビジネスや経営全般の幅広い知識が得られる素晴らしい資格だ。勉強の過程で、必ず成長できる。今からでも遅くはないから是非資格取得を目指しなさい!」との力強い激励をいただいた。

そして、単細胞な私はその話を聞いた週末、財務会計の過去問題集(2011年版)を買って、問題を解いてみたのである。法学部出身で、旅行営業一筋だった私にとって、財務会計の問題は衝撃的だった。20問中、確かに理解した上で正答できる問題が、ほとんどなかった。しかも、本試験の最終的な合格率(一次試験・二次試験ストレート)を調べてみると、わずか4%である。「これは、大変な資格取得に足を踏み入れてしまった」というのが、正直な感想だった。

営業で実績は残してきたものの、J社で順調なキャリアを積んできたとは言いがたい私は、自分の存在意義をこの資格に見出していたのかもしれない。まったくの独学で、2011年のGW明けに勉強を開始した。当時、まったくの勤で4年くらいあれば取得できるのではないかと考えていた。もうすぐ51歳になろうという初夏だった。

2. 受験1年目

ものの本によると、中小企業診断士試験のストレート合格には年間1,000時間の勉強が必要なのだそう。附属高校から受験なしで大学に上がった私に猛勉強の経験はない。さすがに、仕事をしながら一日平均3時間はかなり高いハードルだった。加えて、もう5月の初め。苦手(と思われる)科目を除いて、3科目程度の科目合格を目指そうと考えた。私が除いた科目は、財務会計・運営管理・経済学経済政策・中小企業経営政策。企業経営理論・経営法務・経営情報システムの勉強に絞ってみた。テキスト・過去問題集とも、市販のものを購入した。結果的には、残り3か月の戦略としては妥当なものだったのかもしれない。その年の難易度が低かったせいもあったのか、経営法務と経営情報システムの2科目が取れた。これが2年目に悪影響を与える。「な

んだ結構いけるじゃないか！」「あと1年で残り5科目、十分可能だな。」大きな勘違いだった。

3. 受験2年目 (2012年)

残ったのは、一から勉強が必要なものばかり。受験校に行く時間も資金もない私は、某社の通勤電車で聞きながら学べる教材を購入した。なかなかいい教材なのだが、思いっきり苦手な（というか初心者）の財務会計と経済学経済政策の勉強がまったく捗らない。簿記とミクロ経済学・マクロ経済学は、当時の私にとって、果てしなく高い山だった。この2科目に時間を取られ、他の科目もなかなか過去問題集に入っていけない。当時仕事もかなり忙しく、非常に中途半端な感じで春を迎えた。さすがにこの頃には、過去問題集に取り組み始めていたが、テキストと過去問題が別物であることを実感した。テキストはそこそこに、ひたすら過去問題集をやるべきだったのだ。そして、2年目の一次試験は5戦全敗。確か、経済学経済政策が40点代で、他の4科目は50点代。全てが中途半端だったのだ。あつと言う間に、来年が正念場となってしまった。

4. 受験3年目 (2013年)

結果が出ない時は、やり方を変えるのがセオリーだ。当時出始めていたテキストに24~30時間の無料講義 (YOU TUBE) が付いている「速習日商簿記3級」(柴山政行著)、「速習ミクロ経済学」「速習マクロ経済学」(石川秀樹著)を購入して、苦手科目の克服を図った。メインのテキストは、大手予備校のテキストだったが、中小企業政策だけは他の予備校のテキスト2冊を購入して勉強した。なるべく、テキストは早めに終了して、過去10年間の過去問題集を3~5回ほど回した。しかし、勉強時間の確保は十分だったとは言えずに迎えた一次試験の3年目。経済学経済政策が、かなり難しく下手をすると足切りに合いそうな出来で、試験後は意気消沈。試験翌日の自己採点で何と2点足りておらず (5科目298点)、さらに奈落の底へ・・・。

しかし数少ない受験仲間が、「経済学経済政策の難易度が高く、一律加点があるかもしれない」と言う。な、なんだ、その一律加点というのは??つまり、例年と比べて著しく難易度が高く公平性が保てないため、全受験者に2点とか3点とかを加点するのだと言う。ということは、2点足りない私にもチャンスがあるのかもしれない。ただ合格発表までは、一律加点は公表されない。一か八かで、私は大手予備校の二次試験追込講座に申し込んだ。二次試験の勉強は、まったくしていなかった。そんな余裕は、まったくなかった。

一次試験の合格発表日の朝。私は、東銀座の東京都中小企業診断士協会にいた。合格番号の張り出しを見に行くためだ。合格した受験番号だけが、機械的に並んでいるそっけない模造紙だ。そして・・・あつた!!一次試験に合格した。受験仲間の言葉どおり、3点一律加点に救われた私は、合格点+1点のぎりぎり、二次試験に進んだ。が、二次試験の何たるかをわかっていない私に勝ち目はなかった。10月の二次試験。BCBCの惨敗だった。とどめは、事例Ⅳの減価償却費の定率200%だった。放心状態で、五反田の街を歩いたのを覚えている。送られてきた成績表を見ると、てっきりDだと思った事例ⅣがCだったので、二次試験にも一律加点があるのだな・・・と勝手に思った。

5. 受験4年目 (2014年)

1年目の二次試験に落ちたのは自分の実力不足に尽きるのだが、何となく某大手予備校との相性の悪さを感じ、二次試験の2年目は他の予備校のDVD講座に託すことにした。その予備校の中小企業経営・政策のテキストの完成度の高さに、信頼感を持っていたからだ。あの2冊(中小企業白書・中小企業施策総覧)をきちんとやっていたら、70点前後はとれる・・・と思ったくらいだ(あながち嘘ではない)。それに、主任講師のDVD講義には説得力があった。二次試験の勉強は、受験校なしではかなり厳しいのではないだろうか？そして、一度決めたら、「あなた命」と心中するつもりで付いていく。そういうものだと思う。

具体→抽象→具体・・・という予備校のメソッドは、今の私ならある程度消化できたかもしれないが、当時の私には少し難易度が高かったのかもしれない。2回目の二次試験は、それなりに手ごたえはあったが、ADCAという結果だった。この年の、事例Ⅱのモデル企業は旅行会社。受験仲間に、事前に聞いてはいた。「自分が勤めている業種が出題されたら、要注意だ。あくまでも、与件に書いてあることから答えを導け！」・・・と。しかし、すらすら書けた私の答案に、与件を根拠にした記述は少なかったに違いない。30年間旅行会社勤務の私は、見事に罠にはまったのだ。まさに、地雷を踏んでの爆死である。かくして、診断士試験受験は振り出しに戻った。

6. 受験5年目 (2015年)

受験校に行かなくても、一次試験の勉強の方法はわかっていた(と思っていた)。それなりに手ごたえもあった。しかし、2013年3点に笑った私は、4科目の科目合格にとどまり、2015年は4点に泣いた。残った3科目は、企業経営理論・経済学経済政策・経営情報システムだった。この経営情報システムを残したことが、最後まで私を苦しめることになるとは思わなかった。

7. 受験6年目 (2016年)

経済学経済政策は、石川秀樹さんの講義を聴きながら「速習ミクロ経済学」「速習マクロ経済学」で復習を行い、あとは3科目の過去問題を徹底的に解いた。二次試験の準備も、わずかながら行った。そして8月の一次試験。初日の2科目(経済学経済政策・企業経営理論)を終えて、かなりの手ごたえ。これは行けると思って迎えた2日目の経営情報システム。な、なんなんだ、この問題は！前年までの傾向とまったく違うではないか。受験会場は、受験生たちの心の叫びが聞こえてきそうな重苦しさだった。試験が終わった瞬間、「足切り」という文字が頭に浮かんだ。こんな○▲(きたない言葉)みたいな問題で、俺は1年を棒に振ることになるのか！これで、60点取れているヤツはどれくらいいるのだろうか？と、様々な思いが頭をめぐった。

そして翌日の自己採点。企業経営理論が71点だったので一息ついたが、経済学経済政策は伸びずに60点。これでほぼ望みは絶たれたと思って、経営情報システムを採点してみると、思いのほかできている。あれっ？これも○、これも○・・・なんてやっているうちに58点になった。思わず、自己採点をしていた会社の会議室で、「やった～！」と叫んだくらいだ。その後、経営

情報システムに2点の一律加点が判明し(60点)、結果11点オーバー(3科目191点)で一次試験を突破した。経営情報システムで60点取れたのは、過去問題集を徹底的につぶしたからだと思う。正答がわからなくても、明らかに間違っている選択肢とか、怪しい表現の選択肢、過去の不正解パターンをつぶすことで、限りなく正答に近づけたのだと思う。過去4年間の経験が見事に活きた瞬間だった。

そして、二次試験への本格準備を開始。この年は、春からMMCの通信講座を始めていた。MMCには、事例Ⅰ～Ⅳにそれぞれに異なったフレームワークがある。各事例の過去問題をいくつかのパターンに分け、そこに事前に用意した金型を置いてくる・・・というメソッドは、非常に理にかなっていると感じた。新作問題・過去問題の添削指導(解答後の答えはインターネットでアップロード&添削後の答えはダウンロード)も、丁寧でわかりやすくじっくりくる。ただ、少し立ち遅れた・・・と感じた。やはり、6月から8月まで大半を一次試験にとられたのは痛かった。結果は、CABAで不合格。しかし、かなり合格に近付いた実感はあった。MMC云々というよりも、事例Ⅰで、あまりに組織人事らしい解答を書こうと焦った私の自滅だった。MMCへの信頼は揺るがなかった。

8. そして、運命の受験7年目(2017年)

2016年12月以降は、丁寧にMMCのメソッドに取り組んでいった。2017年に入ってから模擬試験(5月・6月・8月)も、抜群の点数はとれないものの、ほぼ合格点前後の点数で安定してきたし、金型(解答用の記述パターン)もだいぶ豊富になってきた。しかし、何か決め手になるものが欲しい。そこで、他の受験校のメソッドも体験することにした。8月～10月は、他の受験校の体験セミナー・集中講座などに顔を出しては、少しずついいものを取り入れる努力をした。「なるほど!」というものもあったので参加した甲斐はあった。が、軸はぶらさず、MMCのメソッドを固めていく日々を続け、試験当日を迎えた。

試験会場は、千葉商科大学。2回目の一次試験に合格した時にゲンのいい受験会場でもある。当日は、風雨共に強かった。会場到着前に、体が濡れて少し寒かったが、気持ちはホットだった。しかし、初っぱなの事例Ⅰにボディブローをみまわれる。1～3問は書けたし自信はあったが、4～5問の解答に自信が持てない。50点前後か・・・。事例Ⅱは、逆にスラスラ書けた75点前後は取れているはず。少し気分的に復活して午後の部へ。

そして、再び事例Ⅲに打ちのめされる。事例Ⅲっぽくない問題だ。事例Ⅱ的な解答(一部事例Ⅰ的なものも)ばかりが思い浮かぶ。再び50点前後か。事例Ⅳは、比較的できたと思った。70点程度か。しかし、後日MMCの模範解答を見ていると計算問題で結構ミスっていた。う～ん。60点程度かも。とすると、合計点は235点。5点足りないではないか!合格確率は30%と見た。

今回落ちると、また一次試験に逆戻りとなる。これから7科目、年間1000時間の勉強は57歳の身には、あまりにつらい。私は、某機関の養成コースの受講を真剣に考えた。一次試験の合格者が270万円支払って、火・木曜日の夜3時間、土曜日の昼間7時間の授業を1年間受講すれば、中小企業診断士の資格が取得できる・・・という制度だ(学校によって、金額も年数も異なる)

る)。妻と侃々諤々（かんかんがくがく）の議論をして説得し、銀行に教育ローンの相談に行つて、企業経営理論・運営管理・財務会計の勉強を再開した（この3科目のテストがある）。本当に、落ちる可能性が高いと感じていたのだ。

そして運命の12月8日を迎える。半ばあきらめていたので、10時から中小企業診断士協会のホームページで合否を見られるのに、友人からの問い合わせを聞いてから始動。合否を確認したのは10時45分頃だった。そして運命の瞬間。受験番号があった！不思議と冷静だったが、思わず隣の同僚（後輩）に、「俺、中小企業診断士二次試験の筆記に通ったよ！」と話したら、「凄くないですか！」と興奮気味に祝福された。受験仲間に連絡をすると、私を含む5人の内3人が合格するという確率の高さだった（去年は、6人中0人）。12月17日の口述試験の出来は、あまり良くなかった。かなり想定外の質問が続き、少々動揺したからだ。しかし、無事12月26日にインターネット上で合格を確認し、12月27日に合格証を受け取った。

6年超の努力が実った瞬間感じたことは、受験を通じて培ってきた知識・ノウハウ・経験で、自分が成長できたということの喜びだ。また、生意気ながらこれで世の中の中小企業のお役に立てるという喜びでもある。この数年の勉強の過程で、自らの仕事の実績も右肩上がりになってきたし、回りの私を見る目も少しずつ変わってきた。フェイスブック上で、6年間以上受験奮闘記を綴ってきたので、フェイスブックで合格を報告すると320いいね！が付いてびっくりした。これまで、「中小企業診断士試験を目指します」「マックで勉強をしています」「一次試験不合格」「一次試験合格」「1度目の二次試験不合格」「2度目の二次試験不合格」「あきらめずに勉強再開しました」「一次試験不合格」「2度目の一次試験合格」「3度目の二次試験不合格」「でも俺はあきらめない」、などをバカ正直にアップし続けてきたので、結構感情移入していただいたようだ。

そして感じるのは、妻への感謝。この6年超勉強に没頭し、あまり旅行にも行けなかった私を優しく見守ってくれた。最近、年が明けたら二人で温泉にでも行こうかなあと思う日々。でも習慣からか、毎日の勉強がやめられない。大晦日の今日も6時には起きて、ビジネス書を読んで・・・。中小企業診断士としての勉強は、始まったばかりである。

以上